

39 . 老女と猿

昔、ペットの猿を持った老女がいました。彼女には、リンダというかわいい孫娘もいました。彼らはジュアン王子という独身の統治者の国に住んでいました。

ある日、リンダが言いました。「猿を殺しましょう。おばあさん、私はその皮がほしいの。」

老女は彼女のペットの猿と別れたくありませんでした。しかし、孫娘を大変愛していたので、彼女の望むことをすべて叶えてやりたかったのです。

そこで、猿は殺されました。その皮は数日の間太陽の下で、乾かされました。猿の皮が十分乾いた時、リンダはそれを身に着けました。すると彼女はまるで猿のようでした。そこで、彼女がそれを身に着けている時は、猿と呼ぶように、おばあさんに頼みました。

ジュアン王子は、老女がペットの猿と、かわいい孫娘のことを聞いていました。ある日、彼は、彼らを訪ねました。

リンダは、王子が来ることを聞いた時、彼女は猿の皮を身に着けました。ジュアン王子が到着すると、老女は彼にすべての礼を尽くして、その地位にふさわしく、振舞いました。

「猿よ、タバコとマッチをお客様に持ってきて。」と老女は言いました。

リンダは、猿の皮を着て、本当の猿のように見えて、タバコとマッチを取りに行きました。

「あなたはすばらしい猿を持っていますね、おばあさん。」とジュアン王子は言いました。「それを買えるだろうか？」

「王子様、ごめんなさい。」と彼女は答えました。「しかし、猿は私のたった一人の友人です。」

タバコをくゆらせながら、ジュアン王子は出て行き、どこに、彼が聞いていた美しい少女がいるのかと考えていました。

次の日、彼は老女の家に戻ってきて、少女を驚かそうとしました。しかし、彼は誰も見つけられませんでした。ただ、老女と猿がそこにいるだけでした。

39 . 老女と猿

「私は、猿のために、帽子3杯の金をあげよう、おばあさん。」と彼は言いました。

「ごめんなさい、王子様」と彼女は答えました。「しかし、リンダという少女がいて時々、猿に会いに来ます。私が猿を売ったのを知ったら、悲しむでしょう。」

これは、彼の目的を止めさせることにはなりません。そして、老女は、彼をがっかりさせてはいけない、と考えて、それを彼に売ることに同意しました。

王子は、次の日、帽子3杯分の金を送ってきましたが、しかし老女はそれを受け取ることを拒否しました。

「ただただ、この猿を大切にしてください。」と彼女は言いました。「その支払いは、もう十分です。」

ジュアン王子は、彼女にお礼を言い、猿に変装したリンダを連れて、彼の宮殿に帰りました。

その時、もうひとつの王国に、3人のかわいい王女、ルファ、パオラ、ナネットがいました。ある日、ジュアン王子は、それらを訪問することを思いつきました。

「猿よ、私の風呂を準備してくれ。」と彼は言いました。「私は、3人の王女を訪ねる。」

猿は、言われたようにしました。ジュアン王子は風呂に入り、服を着て、すぐに行く用意ができました。彼の馬の用意もできました。

猿は彼と行きたくなりました。それは偽の猿です。5回馬に乗ろうと試みました。ジュアン王子は彼女の要望に我慢ができなくなり、猿の顔を平手で打ち、出発しました。

猿に変装しているリンダは、ジュアン王子の一撃の力で倒れました。しかし、彼女は起き上がって、猿の皮を脱いで、彼女の魔法の指輪を見て言いました。「指輪よ、指輪よ、私に服をちょうだい！」

すぐに彼女は、豪華な服を着ました。

「指輪よ、私の馬をちょうだい！」リンダがそう付け加えると、すぐに馬は、乗馬用の道具一式をつけて現れました。

彼女はすぐに馬に乗って、ジュアン王子が行った方へ進みました。すぐに追いつきました。

「若いご婦人、どこから来られましたか？」とジュアン王子は聞きました。

「ダンピルの王国からです。」と彼女は答えました。

彼らは長くは話さず、別れました。ジュアン王子は3人の王女のいる宮殿に行きました。

彼は進みながら、ジュアン王子は道で会った少女が忘れられませんでした。彼は、宮殿に着いてもまだ彼女の事を考えていました。そして、訪問を早く切り上げて、急いで家に帰りました。

彼は、また猿に変装して彼を待っているリングダを見つけました。

「猿よ。」ジュアン王子は言いました。「今朝のようなことを繰り返すな。私はそれがきらいだ。」

次の日、彼は、猿にもうひとつの旅をしようとしていることを言いました。彼は、その目的が、前の日に彼が道で会った、若く美しい女性にもう一度会えるかもしれないからということ、言いませんでした。

猿は彼が旅に出るための用意を手伝いました。昨日の様に、彼と一緒に行くことを要求しました。これは、ジュアン王子を大変怒らせ、彼は猿を強く蹴飛ばし、出て行きました。

彼が出て行くやいなや、リングダはまた、猿の皮を脱ぎました。すると、魔法の指輪を見つめて言いました。「指輪よ、私に服を与えてちょうだい！」すぐに、彼女は自分が美しい服を着た王女のように装っていることがわかりました。

「指輪よ、私に馬をちょうだい！」と彼女は指輪につげ、すぐに馬が現れました。

リングダは馬に乗ると、すぐにジュアン王子に追いつきました。

「若いご婦人、あなたは、私が昨日会ったのと同じ人ですか？」と彼は聞きました。

「私です。」リングダはそう答えて止まりました。

ジュアン王子は、その少女のことをもっと不思議に思いました。彼は3人の王女の訪問を早く切り上げて、急いで帰りました。

次の日、彼はもう一つの旅の準備をしました。そして、いつものように猿に変装したリングダは

ジュアン王子と一緒にいきたいと要求します。そして、猿の要求は王子を怒らせ、彼は口を平手打ちし、出てゆきました。

すると、リングダは、また指輪を見つめて、言いました。「指輪よ、服をちょうだい！」すぐに、リングダは、豪華な服を着ていました。

するとリングダは言いました。「指輪よ、馬をちょうだい！」すぐに馬が現れました。

リングダは馬に乗り、出てゆきました。ジュアン王子に追いつくのに、時間はかかりませんでした。

「また、君だね！」彼は、叫びました。「君と一緒に行ってもいいかね？」「ごめんなさい、それはできません。」とリングダは答えました。「あなたがそうされると、私の王は怒るでしょう。」

彼らは分かれしました。しかし、ジュアン王子は彼の旅を続けられませんでした。彼の心には、3日間の出来事がよみがえってきました。そして、すぐに家に帰ることに決めて、宮殿への近道をしました。だから、ジュアン王子が宮殿に着くと、猿はそこにはいませんでした。そのかわり、猿の皮を彼は見つけました。

するとリングダは、到着して、そして彼に彼女自身のことについて語りました。「もう、私はおばあさんのところへ帰らなければなりません。」と彼女は付け加えました。

ジュアン王子は彼女に従って、おばあさんの家に行き、猿との彼の経験を語りました。すると彼は彼女に、リングダへの残酷な仕打ちへの赦しを請いました。

老女は彼を赦しました。ジュアン王子とリングダは結婚し、リン打破もう猿の皮は着ることはありませんでした。

#### 練習問題

##### 語彙の学び

次の単語の意味を辞書で調べなさい。それぞれの言葉を使って、文章にしなさい。

- 1 . befitting
- 2 . companion
- 3 . purpose
- 4 . patience
- 5 . insistence
- 6 . proceeded

## フィリピン 神話と伝説

- 7 . disguised
- 8 . previous
- 9 . reviewed
- 10 . experiences

### 物語を理解する

正しいか、間違っているか、答えなさい。

- 1 . リンダは、老女の孫娘でした。
- 2 . 老女は、リンダをとて愛していました。
- 3 . ジュアン王子は、もし、老女が彼女の猿をくれるなら、カバン10杯分の金を与えると言いました。
- 4 . 彼女はジュアン王子をがっかりさせたくなかったので、老女はさいごには彼に猿を与えました。
- 5 . 5回、猿はジュアン王子と旅に行こうとしました。
- 6 . ジュアン王子は、3人の王女を訪問していました。
- 7 . リンダは王子に彼女自身のことについて、真実を語りました。
- 8 . ジュアン王子は、彼女に、おばあさんのところへ帰って、二度と宮殿には来ないように言いました。
- 9 . リンダは魔法の指輪を持っていました。
- 10 . リンダとジュアン王子は結婚して、彼らはずっと幸せに過ごしました。

### 明確化と発展の評価

1 . 老女は、王子に言いました。「この猿を大切にしてください。それだけで、お支払いは十分です。」彼女がこれらの言葉に込めた気持ちはどんなものだったのでしょうか？

2 . この物語は、リンダが魔法の指輪を持っていたことを告げています。あなたは魔法を信じますか？